

先生各位

## 検査内容変更のご案内

謹啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素はひとかたならぬお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、下記の項目におきまして、検査内容を変更させていただきますのでご案内申し上げます。

今後とも変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

《変更日》 平成 30 年 10 月 1 日（月）受付分より

《変更内容》

- 検査項目名称と報告書名称の表記を合わせるため（頸管 ← 頸管）

総合 検査案内	検査 コード	検査項目名称	変更内容	変更後	変更前
P.38	0137	子宮頸管粘液中 顆粒球エラスターゼ	報告書 名称	子宮頸管粘液中顆 粒球エラスターゼ	子宮頸管粘液中顆 粒球エラスターゼ
			会計名称	子宮頸管粘液中	子宮頸管粘液中
	0186	頸管腔分泌液中癌胎児 性フィブロネクチン	報告書 名称	頸管腔分泌液中 癌胎児性フィブ ロネクチン	頸管腔分泌液中 癌胎児性フィブ ロネクチン
			会計名称	頸管腔分泌液 癌胎児性	頸管腔分泌液 癌胎児性

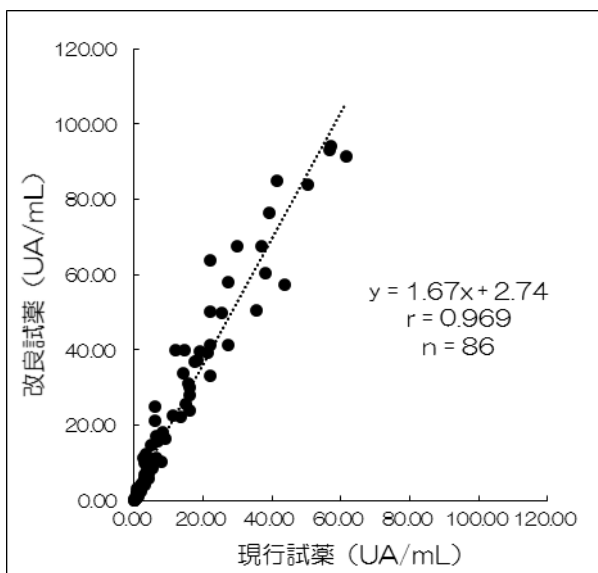
● 報告書名称の変更

総合検査案内	検査コード	検査項目名称	変更内容	変更後	変更前
P.102	3105	便ヘモグロビン	報告書名称	1行目： 便ヘモグロビン 2行目： ラテックス法1日目	1行目： 便ヘモグロビン 2行目： ラテックス法
	0470			1行目： 便ヘモグロビン定量 2行目： ラテックス法1日目	1行目： 便ヘモグロビン定量 2行目： ラテックス法
P.103	3108	便ヘモグロビン& トランスフェリン		1行目：便Hb&Tf 2行目：1日目	1行目： 便ヘモグロビン& トランスフェリン 2行目： トランスフェリン

● 測定試薬の変更

総合検査案内	検査コード	検査項目名称	変更内容	変更後	変更前
P.42	2721	特異的IgE CAP シン グルアレルゲン ヒノキ	測定試薬	ヒノキ花粉に対す る感度が向上した 改良試薬	
	9877 (0184)	View アレルギー-39 ヒノキ			

《相 関 図》



《判定一致率》

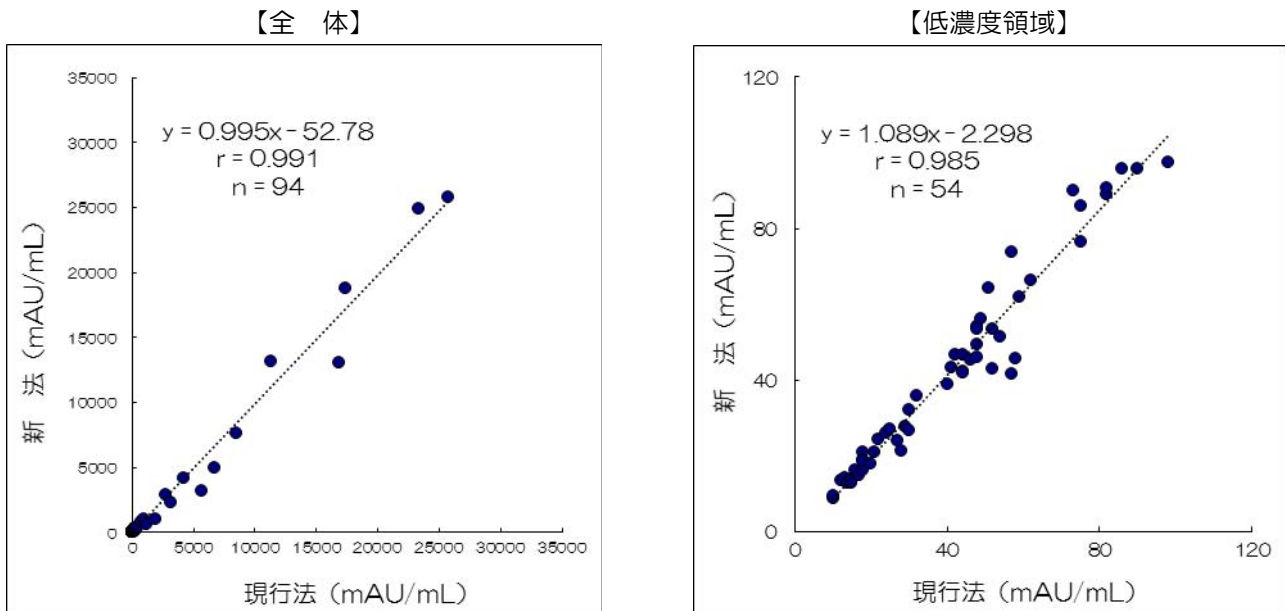
改良試薬	6						1	
	5					10	4	
	4				13	8		
	3			14	16			
	2		3	12				
	1	1	2					
	0	16						
	判定	0	1	2	3	4	5	6
		現行試薬						

陰性一致率	16/17	94%
陽性一致率	78/78	100%
判定一致率	96/100	96%

● 検査体制見直しにおける変更

総合検査案内	検査コード	検査項目名称	変更内容	変更後	変更前
P.91	4020	PIVKA-II (腫瘍)	検査方法	CLIA 法	CLEIA 法
			JLAC10	5D520-0000-023-051-01	5D520-0000-023-052-01
P.93	1264	NCC-ST-439	検体量	血清 0.6mL	血清 0.5mL
			所要日数	4 ~ 6 日	2 ~ 5 日
			報告範囲	2.5 以下~ 5000 U/mL 以上	1.0 未満~∞ U/mL

《PIVKA-II の相関図》



● 項目名称の変更：日本臨床検査標準協議会（JCCLS）尿沈渣検査法 2010 表記に準拠

総合検査案内	検査コード	検査項目名称	変更内容	変更後	変更前
P.102	3256、 3263 (3277)	尿沈渣 尿路上皮細胞	項目名称	尿路上皮細胞	移行上皮細胞

● 項目コードの新設：日本臨床検査標準協議会（JCCLS）尿沈渣検査法 2010 に新規収載されたため

報告用コード	検査項目名称	備考
1652	フィブリン円柱	検出された場合にご報告致します。
1844	塩類・結晶円柱	
1877	ウイルス感染細胞	

《変更日》 平成 30 年 10 月 9 日（火）報告分より

《変更内容》

総合検査案内	検査コード	検査項目名称	変更内容	変更後	変更前
P.105	3369	一般細菌薬剤感受性検査	1 菌種	報告可能薬剤 モルガネラ、プロピデンシア、プロテウス（ミラビリスを除く）においてイミペネムが報告可能	
	3370		2 菌種		
	3371		3 菌種以上		

《変更理由》 薬剤感受性パネル変更に伴う報告可能薬剤拡大のため